

前橋市は誕生から 130 年を迎えました。

これは 関東では東京市・横浜市・水戸市に続く四番目の歴史です。

明治の維新から、さまざまな困難を乗り越えてきたその住民市民の努力の結果と改めて先人にお礼を申し上げます。

その間、平坦ではありませんでした。

とくに大きく険しい5つの危機がありました。

●一番目は

利根川の浸食によって崩れてしまった前橋城からお殿様が川越に移った危機です。

人々が 前橋城を復元することによって復活をすることができました。

●二つ目は

廃藩置県によって前橋藩がなくなってしまった危機

それも県庁を作り県庁所在地となったことで乗り越えることができました。

●三つ目の危機は昭和大恐慌です。

絹産業が壊滅した経済危機です。人々は・赤城山や敷島を観光地にかえ・漬物産業・木工産業、そして・中島飛行機・理研などの・重産業や・先端産業の誘致によってその危機を乗り越えてきました

●四つ目の危機は敗戦です。

前橋空襲によって市域の過半が消失しました。前橋はいち早く区画整理などの復興事業に取り組み、町村合併や工場誘致により生産都市、大学による医療学術都市へ転換をしたのです。

これら今まで前橋を襲ってきた危機はすべて市役所や政治の力以上に市民や経済人の先見性と勇気によって乗り切ってきたのです。

●今私たちは五番目の危機に直面しています

それはグローバル経済の中での円安やあるいはウクライナへのロシアの侵略による食糧・エネルギーの高騰です。

その危機を私たちは新しい市民の力、市民一人ひとりの力によって乗り越えようとしています。めぶくを合言葉に市民が結びあって必ず乗り越えられる。それは前橋の力です。

その一つが デジタルの技術を活用した新しい社会づくり。さまざまな知的企業の誘致を進め、今前橋は全国から注目されるモデル都市になろうとしています。さまざまな産業のオフィスが開かれようとしています。

一方、自然の中でリラックスした暮らしを求めるスローシティによる移住や担い手も前橋に移り住んでいます。

さらに、さまざまな地域における市民のちょっと困ったような不便な改良も進んでいます。

例えば高齢になって免許を返した人への自由に外出できる交通にとりくんでいます。

学びの場も色々な課題を抱える子どもや保護者への支援も充実して来ました。

18歳までの医療費の無料化も実施できました。

多くの工業団地が売れ行き好調でもあります。

自治会の方々が心配する危ない道路の改良

などなどなど

前橋が今、動いています。危機を恐れ、港に留まって嵐の過ぎるのを待つのではなく、嵐の中でも漕ぎ出して漕ぎ続けて行かねばなりません。嵐だからと言って港にとどまっているわけには行きません。

ともに 今日より明日はちょっとでもよくなるそんな

未来に向かってこの130年を新たなスタートの年としましょう。皆さんのお力をお貸しくください。

本日は前橋の発展にお力を貸していただいた皆様への功労にお礼を申し上げます。

来賓にもご臨席への感謝を、設営の係の方にも労いを申し上げます。

今回の式典は地域地域の方々がイベントや記念の品も地域の宝を感じてもらいたいと知恵を絞ってくださいました。

市長が決めるのではなく、それぞれの地域一人ひとりの知恵や力を大切にし、その下支えを市長がやってまいりたいと思っております。

地域の皆さんと私たち市役所それぞれが対等の関係を持って、そして尊重し合いながら力を合わせて前橋全体を良き町にして参りましょう

皆様のご健勝そしてご多幸をお祈り申し上げ市長のメ
ッセージを結びます。